

## 白糠町立庶路学園／白糠町認定こども園 庶路こども園

■ 建築主	白糠町	■ 建築物の概要	所在地	白糠郡白糠町西庶路学園通1丁目1番地
■ 設計者	(株)アトリエアク		主要用途	小学校・中学校・こども園
■ 施工者	《山根・葵・宮脇特定建設工事共同企業体》 山根土建(株) 葵建設(株) 宮脇土建(株)		構造及び階数	RC造 一部SRC造・S造 3階建
	《八百坂・村井・坂野特定建設工事共同企業体》 (株)八百坂建設 村井建設(株) 坂野建設(株)		建築面積	4,692.35㎡
	《北電・サンエス・清水・関特定建設工事共同企業体》 北電工業(株) サンエス電気通信(株) 清水電機(株) (有)関電機工業舎		延べ面積	9,270.42㎡
	《山田・太平洋特定建設工事共同企業体》 山田水道機工(株) 太平洋設備(株)		竣工年月日	平成30年2月28日



### □企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

白糠町立庶路学園は、東日本大震災以降、津波災害を避ける対策として高台への移転を計画し、海拔30m以上に敷地を造成することで実現した幼・小・中一貫校である。旧庶路小・中学校は老朽化もさることながら校舎が海拔10m以下と低く、震災以降子ども達の安全確保が急がれていた。また、庶路地区には山はあっても避難に適した高台がなく、庶路学園計画は安全な場所づくりとしても必要であった。避難ルートの確保、複数のエネルギーによる設備システム、冬季を想定した災害時対応を考慮した設備計画等、地域の避難施設として充実した機能とスペースを確保している。

### □設計の特徴

プロポーザルでの特定を受け、1年に渡る建設検討委員会での議論が始まった。道内ではまだ例の少ない一貫校として、また、こども園の併設と特殊な学校の構成、そして地域開放と避難施設としての充実等、高台のない地域としてはこの際一番安全な場所の確保が必要であり、地域住民全員が避難できることが最重要課題であると認識した。1階はこども園、一般開放と避難に関するフロアが中庭を囲む構成としている。2階は低学年1～4学年、管理部門、小体育スペース。3階は中・高学年5～7学年と8・9学年を中庭を挟み配置している。その他オープンな特別教室、中高学年用の図書コーナーも併設している。全体は中庭を囲み回遊性のある構成とし、交流も学習にも行き止りのない使い方ができるようにと思い計画した。今すでに始まっているアクティブラーニングへの対応も回遊空間から生まれる。

### □施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

- 建築
1. 外断熱・木製の断熱サッシ→開口部のデザインに自由度が増す。
  2. スラブ上に木床組→スラブ上に温水パイプを敷設、事故防止と健康の床組。
  3. 中庭、光と風、安全→光、風、自然の恵みを普通に享受できる半屋外空間。
- 四季を通じた庶路学園の環境確保のためには外断熱を原則とする。採光、通風の為の中庭は、外壁面積が増え熱負荷的には不利になるが、大規模建築には必要と考える。
- 設備
1. ヒートパイプ給気・3種換気→熱負荷を減少。
  2. 土壌蓄熱→1階のみ土壌蓄熱暖房(電気)。白糠町は太陽光発電、バイオマス発電の町でもある。
  3. 床下暖房→2.3階はスラブと木床の間に温水管を敷設。低温水を循環させ均一な暖房空間とする。熱源は灯油とペレットの併用。

### □完成後の地域への貢献度等

白糠町立庶路学園は庶路地区の高台に建設されたことで庶路地区の安心・安全のシンボルとして地域に根付きつつあります。本校の最大の特徴である、こども園・小学校・中学校の一体型施設では校内交流やスペースの共有等、多様な学習が展開され、白糠町の教育理念に基づいた学習環境がさらに充実し注目を集めています。こども園においては越境入園をされた方や、入園の問い合わせが増えており、地域からの関心も高まっています。現在、地域交流として一般開放を開始したところですが、今後は1階交流・開放スペースも含めた運用についても検討を進め、新たな地域交流の核となることを期待しております。



### □受賞のことば

建築主 白糠町長 棚野 孝夫

この度は、白糠町立庶路学園、白糠町認定こども園 庶路こども園が、北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞することとなり厚くお礼申し上げます。

本施設は、小中一貫教育校で公立の幼保連携型認定こども園を併設した一体型とし、9年間の小中一貫教育を過ごす児童生徒と認定こども園で学び生活する幼児が、それぞれに多様な教育活動が展開できるとともに、幼児教育と義務教育が連携・融合できる施設となっております。また、海拔約30mの高台に位置し、地震発生時の津波避難場所として、災害時に必要な食糧等を保管する備蓄庫や停電に対応する発電設備など防災拠点としての機能も備えた施設として建設致しました。

このように校舎、園舎、屋体全てにおいて子供たちが生き生きと楽しく学校生活が送れるよう施設整備に努めたところであり、さらに多様な世代の新たな交流の場として地域に愛される施設となるよう願っております。

本事業に携わっていただきました設計者並びに各企業体様におかれましては、工事の完成に向け誠心誠意ご尽力いただきましたことに敬意を表しますとともに関係各位、地域の皆様に対しましても、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

設計者 株式会社アトリエアク 顧問 井端 明男

白糠町立庶路学園を評価していただき心からお礼申し上げます。

庶路学園は、小中一貫校とこども園を合せて建設し教育の将来を見据えた子供環境の充実を意図しました。一貫校はまだ例が少なく手探りの状態から始まりました。私達は空間のつながりをテーマとし、切れ目のない空間は学習の多様性へと発展していくものと考えました。

学習空間は中庭を中心に行き止まりのない回遊性を持ち、移り変わる学習の風景は上級して行く過程をイメージしやすく、前を見ても後ろを振り返っても9年間を見守っている先生とみんなが同じ屋根の下で学んでいる安心感は、一貫校最大の良さといえます。

最近「アクティブラーニング」「ICT」という教育用語が良く使われています。これは学修者の能動的な学習形式が望まれているからです。庶路学園では回遊空間を縦方向につなぐホールを特別教室と隣接させ、これから始まる多様な学習に対応する空間としました。空間と学習、地域との交流の中で培われる感性と創造力が、未来につながることを期待したいと思っています。

施工者 《山根・葵・宮脇特定建設工事共同企業体》 代表者 山根土建株式会社 代表取締役 山根 浩

この度は平成30年度北海道赤レンガ建築奨励賞をいただき、関係者の皆様に施工者を代表しまして心より御礼を申し上げます。

庶路学園、庶路こども園は、海拔10m以下にあった旧庶路小学校、旧庶路中学校、旧庶路幼稚園、旧庶路保育園を統合して開園いたしました。津波対策として移動した建築場所は海拔30mの高台にあり、白糠町庶路西庶路市街地や太平洋の海岸線沿いに釧路市街地も遠望できます。工事中には、かつて炭鉱のまちとして栄えた白糠町の炭山坑道の跡も発見されました。歴史ある場所で子供たちの学び舎であり、地域のコミュニティー施設、防災拠点としての機能も備える重要な建築工事に携わることができ、白糠町民としてとてもうれしく思っております。今回施工に参加した建築設備電気の各企業体構成員12社は、すべて白糠町と隣接釧路市に本社を置く企業であり、地元の大事な施設建設に関わられたことに大変喜びを感じております。関係各位に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。